

# 近郊ウォーキング



手前が太郎、奥が次郎

## 有馬道と住吉川の水車

生4-東 廣川 幾雄

有馬街道といえば平野から祇園さんの下を通り、鈴蘭台へ行く428号線がよく知られているが、住吉から六甲山を越えて有馬へ行く山越えの有馬道もある。江戸時代には湯山間道と呼ばれ、北摂から酒造米を運ぶ道として細々と用いられてきたが、明治のはじめ鉄道が敷設され住吉に停車場が設けられると、有馬へ行く最短の道としてにわか活況を呈するようになる。有馬道とはこの時つけられた名である。

大阪から汽車で住吉まで来て、ここから駕籠に乗って山越えをし、有馬温泉に湯治に行くのは当時の金持ちの豪華旅行だった。住吉の停車場には常時40～50挺の駕籠が客待ちをしていたという。現在同じ場所はタクシー乗り場になって同じく客待ちをしている。

有馬道の正式の起点は本住吉神社の東で西国街道(国道2号線)と分かれゆるやかな坂を登るが、現在はJRのガードをくぐって有馬道商店街に入る。ここに有名な豆腐屋があって、いつも客が列をなしている。よほどおいしいのだろう、芦屋、西宮から電車で買いに来る人もいるという。その向かいの東神戸病院では道が狭いので救急車が苦勞している。有馬道はこの先白鶴美術館前を

通って、五助ダム、風吹岩から本庄橋で、深江から来た魚屋道と合流し六甲山頂へ至るが、今回は本格登山はやめにして、最近新設された水車を見学することにしよう。

山手幹線を横断し、阪急電車をくぐると住吉中学がある。中学校の先で道が二つに分かれているので左に進むとすぐに山田区民会館がある。ここに水車が2台まわっている。大きい方が太郎水車、小さい方が次郎水車と名付けられ、太郎は搗臼を次郎は挽臼を動かしている。

六甲山地から流れる中小河川はいづれも急流であるため、古くから水車業が盛んに行われていた。江戸時代後期、水車は油絞りに大きな力を発揮し灘地方は良質な灯油の産地として有名になる。一方酒づくりにおいても、精白度の高い水車搗きの米は灘の生一本の名を全国に高めた。最盛期には臼の数一万余といわれた程だが、昭和13年の水害で流失し、昭和42年の水害でさらに被害を受け、最後の水車も昭和56年に火災によって姿を消してしまった。

今日、関空へ通じる湾岸道路を走ると魚崎の海岸に製粉、製油の工場が並んでいるのに気付くが、水車が地域産業発展に大きな役割を果たした足跡と見ることができる。終(東灘区歴史掘り起こし隊資料集を参考にしました)

## 兵庫パンジーの会が受賞 ひょうご県民ボランティア活動賞

福祉のボランティアなど「兵庫パンジーの会」の地域での活発な、長年にわたる活動が評価され、さる1月24日(土)、宮城さん(音文2期)、三島さん(福祉1期)が出席してハーバーランドのスペースシアタにおいて井戸兵庫県知事より団体表彰を受けました。当日授与された表彰盾は4月5日(月)パンジーの会総会の席上会員に披露されました。



## 編集後記

足掛け3年、7回にわたって連載しました「近郊ウォーキング」が今回で終わります。神戸への愛着をさりげなく滲ませながら故事への結びつきを紹介するこのコラムを楽しみしておられた方も多いと思います。筆者の廣川さんに心からお礼を申し上げます。(サン)

私たちはNPO法人グループの一員として新たなスタートを切ることになりました。従来の活動に加え一般市民を対象にした「まちづくり支援」など環境問題にまで行動範囲が広がり、私たちの潜在知識、技能の活用される機会が増えると思われれます。

各施設、行政からの照会に対応するパターンから、パートナーとしての立場を構築、活動して行く時期が来たと思うのですが、入れ込み過ぎかな。(ST)